

平和憲法・9条をまもる 岩手の会 ニュース No.204

2022. 9. 30

発行：平和憲法・9条をまもる
岩手の会 実務者会議

連絡先 県生協連・県消団連

TEL 019-684-2225

FAX 019-684-2227

☆「憲法改悪を許さない全国署名」11, 293筆（～9月末。うち郵送294通・1,109筆）☆

戦争も核兵器もNO！戦争の悲惨さと平和の大切さを学び伝え続けます - いわて生協 -

「わが子を戦場へ送りたいくない」「子どもたちに平和な未来を残したい」…親であれば誰もが持つ共通の願いです。そして、よりよいくらしも、平和なくしてはありえません。いわて生協では、戦争の悲惨さや被爆体験を風化させず語り伝え、平和の尊さを親子で考えあう取り組みを粘り強くすすめています。

【平和のつどい】

8月9日、盛岡市高松の池平和祈念像「望み」の前で平和のつどいを行いました。いわて生協組合員30名ほどが参加。小雨が降る中でしたが、開始前に祈念像周辺の草取りや掃除を行いました。

長崎に原爆投下された11時2分に全員で黙祷を捧げた後、日本生協連主催「ピースアクションinヒロシマ」にオンライン参加した組合員の代表の方々に、感想や思いを語っていただきました。

また、釜石の艦砲射撃の話や家族から聞いた方が、思いを語って下さいました。戦争は遠い昔の話でも遠く岩手から離れた土地の話でもなく、本当に身近に自分事として捉えることができた平和のつどいになりました。最後に、平和の歌「青い空は」を皆さんで歌い、終了しました。

子どもたちの参加も見られ、「平和なのが楽しいから戦争はイヤです」「この世から戦争がなくなって平和でいてほしい」等々の感想が聞かれました。（佐藤 愛理）

【夏休みピースアクション】

県内各地で毎年夏に親子や友人と平和について考え合う、「ピースアクション」に取り組んでいます。

一関では、8月3日に子ども6人と大人10人が参加し、紙芝居「おこりじろう」を鑑賞、平和について考え合いました。物語の舞台は、広島原爆投下の日。被爆して最後の水を求めに来た幼い女の子に、それまでニコニコ顔だった地蔵が、怒りに震えながら涙を出して飲ませてあげるお話で、女の子は喉を鳴らして飲んだ後、亡くなります。その姿を見届けた地蔵もまた、粉々になっていきます。その様子を読み手が感情たっぴりに読んで、参加者を物語の世界に引き込んでいました。

痛々しい姿の女の子を目の前にした地蔵の気持ちを考えたり、にこやかな地蔵を母親だと思って救いを求めた女の子を想う時、胸が締めつけられます。二度とこのような悲しい出来事を繰り返さない、という強い意志を持って行動したいと思いました。（君成田 明希）

参加者の声 ◇おじょうさんが女の子のためになみだをながしたのがびっくり。バクダンをおとすのはダメだと思いました。黒く丸太ようになった人たちがかわいそうでした(小2男の子) ◇おんなのこがかわいそうでした(幼稚園女の子) ◇紙芝居の「絵」がとても忠実に描かれており、戦争のひどさが伝わってきた(大人)



【ピースアクション in ヒロシマ・ナガサキ】とは…

広島・長崎両県生協連と日本生協連は、被爆体験の継承や核兵器のない世界への思いを共有する場として、毎年「ピースアクション in ヒロシマ・ナガサキ」を開催しています。今年もコロナ禍のため、ピースアクションinヒロシマ・ナガサキは、リアル開催とオンライン開催が行われました。

ヒロシマでは、2歳で爆心地から2kmの地点で被爆し、両親を亡くし孤児になってしまった山田寿美子さんの被爆の証言がありました。戦争による苦しみや悲しみは77年経った今でも癒えることはなく、思い出す度に更に辛さが増すと話されました。ロシアによるウクライナ侵襲で核兵器の使用が示唆されたことは、どんなにか辛い思いをされたことと思います。ナガサキでは、被爆の証言「平和の紙芝居」として、3歳で爆心地から約5kmで被爆した三田村静子さんが、今こそ核兵器廃絶を目指さなければならない、と何度とも語っていました。被爆体験者が伝えるからこそ一言一言の重みを心に感じるものがあり、是非一人でも多くの方にその思いを感じてほしいです。

中津川九条をまもる会 17周年記念

「17周年記念 DVD 上映会」開催しました — 「中津川九条をまもる」会

8月26日、「中津川九条をまもる」会17周年記念として、「9-NINE 憲法9条は訴える」DVD上映会を18人で開催。2013年8周年記念の際に、一度このDVDを鑑賞しましたが、改めてみなさんで鑑賞しました。

松元ヒロさんのわかりやすいパフォーマンスから始まり、九条の会呼びかけ人の井上ひさしさん、澤地久枝さんなどの話、「戦争のつくりかた」の朗読が流れました。難しいことをわかりやすく話す。今は亡き井上ひさしさんの「9条は人生の歩みの結晶…」は、心に響きました。現実味を帯びた内容で。前回観た時も政治状況が世界が変わっていくのを危惧しましたが、2022年の今、戦争の道が自分たちの前に引かれつつあるのを感じました。

参加者からは、「会発足当時からみると、戦争する国へと着々と進んで外堀が埋められてきている感がある。どのように跳ね返していけば良いか、皆さんで英知を集める時だと思う」「9条だけではなく憲法の大事さを痛感させられると共に、今の政府の独断さに腹が立つ。国葬反対！国民の声が反映されていない」などの感想が出されました。

9条の会を作った時の原点に戻る貴重なつどいでした。（中村アエ）



コラ！ — 「ウクライナの次は台湾だと言われている！」 —

（9月東京都内での国際交流団体主催の『シンポジウム』で元首相の鳩山由紀夫氏の発言）

昨年12月、安倍元首相が「台湾有事は日本と日米同盟にとっても有事」と発言してから、東アジアでも有事の懸念が高まっている状況。報道によれば‘21年、米軍の秘密指導員による台湾軍への秘密訓練、‘22年6月下旬、米軍が東シナ海で大量の戦闘機を飛行させ、一部は日中中間線を越え中国本土に接近、航空自衛隊は空中警戒管制機などで警戒監視。また‘22年8月、神奈川県横須賀市駐留・米第7艦隊所属軍艦2隻が台湾海峡通過。さらに同月、ペロシ米下院議長が中華人民共和国との外交手続きも執らず台湾訪問、台湾支持を表明。同8月ペロシ氏の台湾訪問に関する賛否表明を避ける。これに対し中国は8月2日から台湾を包囲・封鎖するよう海域訓練区域を設定、軍事訓練を実施。加えて日本の超党派議連の古屋圭司会長（自民党）が結束確認のため訪台を計画調整。さらに加え6月には自国の核実験（‘21年3回、未臨界実験）を棚に上げサリバン米大統領補佐官が8日、核実験の動きを見せる北朝鮮に対し、核実験強行なら「断固対応する」と警告。

更に接する機会の少ない中国共産党の方針であるが、次の通りであると報道。…中国共産党は21日、習近平指導部の台湾政策について記者会見を北京で開き、台湾関与を強める米国を名指しで批判、台湾統一を阻む勢力との闘争を続けると訴えた。習総書記が3期目入りを目指す10月の第20回大会を前に、統一実現への決意を重ねて表明…とのこと。

いやはや“風雲急を告げる”複雑な状況ではないでしょうか。さてこれをどう見たらよいでしょうか。日本の野党の一つが次のような羅針盤にもなる談話を発表したの、それを見てみましょう。

台湾に対する中国の軍事的威嚇に抗議する（談話）

一 中国は、米国のペロシ下院議長が台湾を訪問したことへの対抗措置として、2日から台湾近海で実弾演習を開始し、4日には台湾を取り囲む6カ所の海域で実弾演習を行い、日本の排他的経済水域内を含む近海に複数の弾道ミサイルが着弾した。わが党はかねてより「台湾問題の解決のためには、台湾住民の自由に表明された民意を尊重すべきであり、非平和的な手段は断固として排されるべきであって、中国が軍事的圧力・威嚇を強化していることに、我が党は強く反対する」（2021年4月17日談話）と表明してきた。この立場から、地域の平和と安定に逆行する、台湾に対する中国の軍事的威嚇の強化に強く抗議し、その中止を求める。

二 一方、米国が、この間、台湾問題への軍事的関与を強化しており、日本政府が米国に追随する姿勢をとっていることは、台湾問題をめぐって「軍事対軍事」の悪循環に陥る危険をはらんでいる。わが党は、日米両政府が、台湾問題に軍事で関与する方向に進むことにも、断固として反対する。台湾問題の解決は、あくまでも平和的話し合いで行われるべきであることを、この機会に重ねて強調したい。

私達は、どちらもどっち論ではなく、日米両政府のすることに対して是々非々でしっかり見て「非々」に対しては「止める！」「反対！」と声をあげてゆきましょう。（T）

「10月の街宣署名行動」7日(金)12:15~12:45 盛岡市大通・野村証券前

「憲法改悪を許さない全国署名」を呼びかけます。 ご都合のつく方は、ぜひご参加ください。